



ま  
あ  
よ  
ん  
で  
み  
て

【活動報告】

- ・ 介護技術講習会
- ・ 市民公開講座
- ・ 障がい児の保健・福祉活動
- ・ バリアフリー展
- ・ 理学療法に関する相談
- ・ 各種障がい者スポーツ大会のサポート
- ・ 管理者ネットワーク交流会



## 理学療法士は“身体づくり”と “生活支援”の専門家

### 01 からだの評価と動きの分析から問題点を見つけ、 最適なリハビリテーションを提供

理学療法士は、病気やケガの回復を促し、**社会や日常生活に戻るまでを支援する役割を担います。**

### 02 理学療法士ができること

「起き上がり」「立つ」「歩く」などの  
**日常生活に不可欠な基本動作能力の獲得**  
運動療法の提案、筋力と柔軟性、バランス能力の改善  
マッサージや温熱・電気療法などを用いた鎮痛効果  
**住宅改修の提案や福祉用具の適切な使用方法を  
提案し、生きがいのある生活を支援します。**

**理学療法の知識を生かした取り組み**  
として“**公益事業**”があります

# 01

## 介護技術講習会



対象



大阪府民のみなさま



府内の介護関連職種者



理学療法士が専門的な知識・技術を交え、自立支援に向けた  
介助方法など実技中心にお伝えします。

### 活動報告

今年度は12市区町村で講習会を開催いたしました。

テキストに沿った内容で、介護の基礎知識・介護のコツを基に臥位での移動、  
起き上がり、立ち上がり、移乗など実施しました。

実技の中には、マルチグローブやトランスファーボードなど介助負担を軽減する  
ような介助用具を、実際に体験して頂きました。

また、各グループに理学療法士を配置しており、参加者の方とコミュニケーション  
をとりながらアドバイスが行いやすい態勢で臨んでいます。

参加者の方々には、介護者の立場や対象者の立場を体験してもらい、満足度の高い  
声をたくさん頂きました。

来年度も引き続き、様々な市区町村で開催していく予定であります。

文責：打越慶一郎

# 02

## 市民公開講座



参加者の声

- ・理学療法士の方に直接運動を教えてもらい、大変分かりやすかった
- ・運動の大切さが分かったので自宅でも運動を続けていきたい

非常に前向きな意見を頂けました！

### 活動報告

市民公開講座では、府民の皆様を対象に理学療法に関する講演や自宅で簡単にできる運動の紹介など、市町村ごとに独自のテーマを立案し趣向をこらせた講座を開催しています。講座の一部を医師や保健師、管理栄養士などに講演していただくこともあります。

例年9月から11月までの期間で開催しており、今年度は府内15市町区で開催いたしました。開催場所は地区により異なりますが、病院や市の有する福祉センター、生涯学習センターなど地域の皆様になじみがあり、参加のしやすい場所を選定しています。

また相談コーナー窓口も設置し、リハビリテーション、介護、病気等に関する相談や参加頂いた方々の体力測定や転倒リスク評価などを同時に行うこともあります。

文責：加島知明

開催前には大阪府理学療法士会のホームページや各市町村の発行する広報誌などで案内させて頂いておりますので、日程をご確認頂き、皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

# 障がい児の保健・福祉活動

## 1. 運動レクリエーション体験会 (関西キッズ機器展)



ボッチャ



e-スポーツ



エアボリン

### 活動報告

大阪府理学療法士会では、『ボッチャ』、『e-スポーツ』、『エアボリン』の3ブースを出展しました。

各ブースご家族も含めて300名を超える方にご参加いただき、「家族そろって楽しめる」をコンセプトとしたイベントを実施できました。多くの方の笑顔に触れ、活気あふれる二日間でした。

文責：岡田雄一

## 2. 肢体不自由児事例検討会



✓ テーマ  
「子どもの呼吸器疾患と理学療法」

✓ 参加者：計55名

### 活動報告

講義を通して個別性が高い小児の呼吸障害における病態や問題点の理解、評価などについてわかりやすく学ぶことができました。ディスカッションでは他職種との連携でのむずかしさや工夫などについて声が上がりました。

講師の方や参加者同士で直接話ができる機会となり、より情報共有や情報交換が行いやすい場になったと思います。

文責：三木未尋

# 03 障がい児の保健・福祉活動

## 3. 重症児者の支援における介助技術講習会



### ✓ テーマ

#### 1日目

「重症児者の摂食嚥下機能障害のアセスメントと支援」

#### 2日目

「重症児者の呼吸機能障害のアセスメントと支援」

## 活動報告

重症児者に関わる支援学校教員や保育士、看護師などセラピスト以外の様々な職種の方々が参加してくださいました。

実際に重症児者の方々の立場、目線になり体験することでこんな風に支援してもらえると良いなど、重症児者の方々へ素敵な介助と支援の方法を学びました。グループワークでは多職種の意見を聞くことができ、改めて1人の重症児者に対して多職種で協力し支援を行っていきたいと思いました。

文責：合田優菜

## 4. 大阪発達系多職種検討会

今年度は「成人期」をテーマに、第1部は脳性麻痺の方々の社会進出の現実とその意義、セラピストの心構え、国際的な研究内容について、その50年を振り返りながらご講演をいただきました。第2部では「摂食嚥下機能」をテーマに3演題の事例検討会が行われました。

なかでも、脳性麻痺者の当事者団体である“青い芝の会”の取り組みや50年前では脳性麻痺児者に対する障がい者差別が強かった時代だったことに衝撃を受けました。パネルディスカッションでは会場から多くの質疑が飛び出し、活発な意見交換が行われていました。

また、成人期ということで既に獲得された・確立された食事方法がある中で、より安全な食事姿勢の評価や食事介助方法の統一など、様々な工夫や取り組みが行われていることを知ることができました。

文責：東郷知美

# 04

## バリアフリー展



### 活動報告

バリアフリー展は、主にインテックス大阪（大阪市住之江区）で毎年開催されている展示会です。会場では、福祉用具メーカー、建築・住宅改修業者、介護サービス事業者、医療・リハビリ関係、自治体、ボランティア団体など、多様な分野が出展していました。来場者は高齢者や障害のある当事者、その家族、ケア提供者、福祉・医療関係者、自治体担当者など幅広く、展示会を通じて「生活環境改善」「移動支援」「住まいのバリアフリー化」「介護予防」「地域支援ネットワーク」などの情報収集・比較・相談がおこなわれていました。さらに、福祉機器の実演・体験、住宅改修相談、専門家によるセミナーや講演、多職種連携のための情報交換など、実用性と学びを兼ねた場となっていました。

大阪府理学療法士会では、来場された方のお悩み相談や、日々の生活を助ける福祉用具の選び方についてお話ししました。また、健康づくりや、無理なく体を動かすためのちょっとしたポイントも、できるだけわかりやすくお伝えしました。会場では様々な立場の方々と協力しながら、「より暮らしやすい環境づくり」について一緒に考える時間となりました。

これからも、地域の皆さまが安心して毎日を過ごせるよう、分かりやすい情報発信や新しい取り組みを続けていきたいと考えています。

文責：松井滉平

# 05

## 理学療法に関する相談



### 活動報告

本事業は、身体機能の維持・向上や介護予防に関する府民の皆様の悩みに対し、理学療法士の専門性を活かした適切な助言と情報提供を行い、課題解決をサポートすることです。相談内容は「理学療法とは何か」といった基礎的なものから、具体的なリハビリテーション実施施設の紹介、養成校に関する進路相談まで多岐にわたり、大阪府民の方々をはじめ特に患者様やご家族、関連職種の方々より幅広くご利用いただいております。活動形態としては、当会ホームページを通じたメール・電話相談のほか、各市区町村士会・自治体と連携した市民公開講座での相談コーナー設置、さらにはイオンモール等での啓発イベントにおける体力測定会や対面相談を実施しております。

私たちは、地域住民の皆様が安心して暮らせる社会の実現に向け、「相談してよかった」と思ってもらえる質の高いサービスの提供に努めております。今後も、行政や関連団体の皆様と連携し、地域保健福祉の向上に貢献してまいります。

文責：森岡研介

# 各種障がい者スポーツ大会のサポート

## 1. 大阪マラソン



### 活動報告

本大会より、対象が車いすマラソンの選手から、より一般の車いすユーザーを対象とした『720〈なにわ〉マラソン』として一新されました。いわゆる競技用の車いすではなく、我々が普段目にする一般的な車いすを使用し、720mの距離を走行します。

当日は粉雪の舞う厳しい寒さの中、待機テント内でウォーミングアップや走行後のクールダウンなどを、穏やかな雰囲気の中実施しました。普段、競技大会に出場することの無い車いすユーザーですので、何かアクシデントが生じた場合も含め、我々理学療法士が参加する意味があると思いました。

文責：西之原隆宏

## 2. 陸上



### 活動報告

第24回大阪府障がい者スポーツ大会における陸上競技のフィジオサポートに参加しました。本大会の位置づけとして全国障害者スポーツ大会の選考会も兼ねており、普段から地域の陸上クラブ等で練習をしている選手も数多く参加されています。

また、身体障がい者だけでなく知的障がい者や精神障がい者など様々な障がいを有した方々にサポートを実施しました。

選手によって試合前後のケアだけでなく、セルフエクササイズの指導なども実施し、大変満足されていました。試合後はメダルを持参し嬉しい報告もありました。

文責：西之原隆宏

# 各種障がい者スポーツ大会のサポート

## 3. ボッチャ



## 活動報告

ボッチャ(2025OSA-CUP)のフィジオサポートに参加してきました。私たちは参加選手たちのリラクゼーションマッサージやストレッチ、投球動作の相談など、選手の要望に合わせてサポート活動を行っています。

2日間で計40名ほど活用していただき、大盛況で幕を閉じました。

大会当日はEXPO2025大阪関西万博の開幕日でもあり、本大会の会場から近いために昨年とは少し違う緊張感や高揚感がありました。

今回印象的であったことは、選手や選手家族から運動前後のストレッチや投球フォームについての相談などがありました。こういったパフォーマンス向上に向けた身体の使い方やケアの方法についての相談を受けることは、私たち理学療法士が活躍できる場であるように感じました。

文責：松並耀平

# 各種障がい者スポーツ大会のサポート

## 4. 車いすテニス



## 活動報告

第24回大阪国際車いすテニストーナメントのフィジオサポートとして参加しました。内容としては選手の試合前後のケア等を行い、対応件数は施術136件、アイシング26件、テーピング6件、メディカルタイムアウト1件でした。

年々残暑が長引く中、選手の中には脊髄障害により体温調整が困難な方もおられます。そういった中で大阪府士会に所属するボランティアスタッフ26名の協力もあり、熱中症などの事故が起こることなく無事に大会を終えることができました。

また、大会前には藤田整形外科スポーツクリニックの古川裕之先生を御招きし、車いすテニスの基本ルールや車いすテニスに多い障害及びテーピング処置等を学ぶ事前講習会を開催しました。大会後のアンケート調査では全体の48%が初参加であり、事前講習会の取り組みがフィジオサポート参加の一因にもなり有意義なものになったかと思えます。

文責：櫻井礼貴

# 07

## 管理者ネットワーク交流会

✓ テーマ

「組織内での事例検討」



### 活動報告

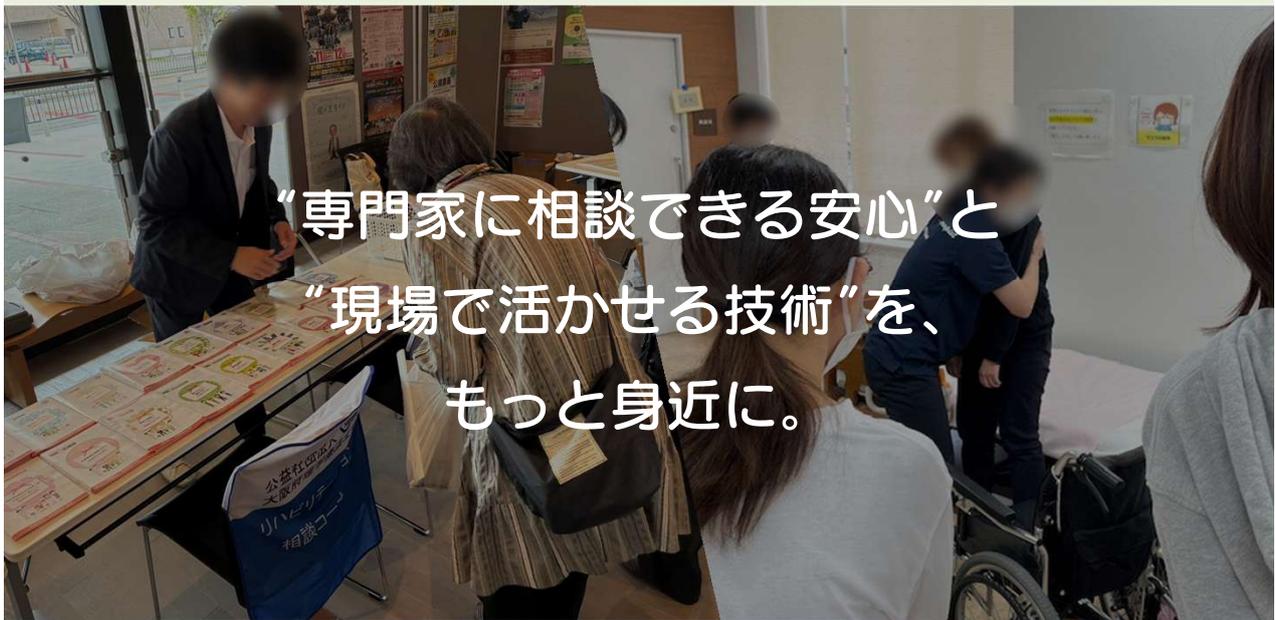
医療介護保険部は、管理者・ミドルマネージャー、そしてこれから管理者を目指す皆様の孤立を防ぎ、より良い環境での業務を支援するため、交流の場づくりに取り組んでいます。

内容としては、事例検討における臨床・学術・教育の視点からの工夫、事例検討を組織文化として位置づけるための工夫などについて解説いただきました。その後はグループワークを行い、運営課題、人材育成、世代間の臨床思考の違いなど、多くの実践的な論点が共有され、管理者同士が学び合い支え合うネットワークの価値を再認識する場となりました。

参加者アンケートでもご好評をいただくことができ、盛況な会となりました。

今後とも管理者・ミドルマネージャーの皆様が互いに学び、孤立することなく活動できるよう、今後も交流事業の充実および支援体制の強化に努めてまいります。

文責：遠藤絢一



“専門家に相談できる安心”と  
 “現場で活かせる技術”を、  
 もっと身近に。

理学療法士が、府民の健康と介護現場を支えます。  
 大阪府理学療法士会が提供する、信頼できる支援サービスです。

01

### 府民の方に対しての リハビリ・健康相談窓口

 「これって年齢のせい？」  
 「誰に相談したらよいか…」

そんなお悩みに、専門的な立場  
から丁寧にお応えします。

- ✓ からだの痛みや動きにくさ
- ✓ 退院・通院後の生活への不安
- ✓ 介護予防や運動の始め方など

ご本人はもちろん、ご家族からのご相談も可能です。

02

### 介護現場を支える 実践型介護技術講習会

 「身体にやさしい介助方法は？」  
 「この人はどうやって介助する」

理学療法士の視点で根拠に基づいた安全で負担の少ない介助技術をお伝えします。

- ✓ 移乗・立ち上がり
- ✓ 姿勢保持
- ✓ 腰痛予防など

講習会の開催相談承ります



公益社団法人 大阪府理学療法士会

〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目6-17 IS本町ビル5階  
 受付時間: 月曜日～金曜日(祝日を除く) 9:00～18:00

電話: 06-6942-7233 Fax: 06-6942-7211

<https://www.physiotherapist-osk.or.jp/>

